



## ●雨漏りの保証事故件数



左は、縦張りサイディングを留め付ける横胴縁が漏水原因になったケース。浸入した雨水が胴縁上面に溜まり、クギ穴から壁内に浸入した。縦胴縁に横張りサイディングの場合でも、横胴縁を部分的に取り付ける際に通気用のすき間を設けず、同様の雨漏り事故が生じたケースがある (写真と上のグラフデータ:住宅保証機構)

# 横からの雨漏り ますます増加

住宅保証機構が2009年度の保証事故件数を公表した。集計データによると、雨漏りの事故例が前年度比で大幅に拡大し、特に住宅の側面からの雨漏りが急増したことがわかった。

屋根の雨漏りは前年度の133件から、09年度は143件と約10%増。それに対して外壁や開口部、バルコニーといった住宅側面の雨漏りは、541件から784件と約45%も増えている(上のグラフ)。

側面の雨漏りで目立ってきたタイプの一つは、通気工法の施工ミスが原因の例だ。「横胴縁で通気や水はけを妨げ、通気層に入った雨水が胴縁上面に溜まり、クギ穴から壁内に浸入した」といった例があるという。

同機構保証審査部長の篠塚重夫

さんは、「このタイプの事故では、現場の施工者が通気の原理や仕組みを正確に理解していないことが施工ミスにつながっている」と警鐘を鳴らす。

さらに側面の雨漏りでは、設計段階で雨仕舞いや防水施工への配慮がないことが原因だったタイプもますます増えてきたようだ。

「軒の出が極端に短い」「開口部を外壁隅部に突き付けて配置し、サッシ縦枠の防水テープ施工の余地がない」など、設計段階の検討不足が原因と見られる例だ。バルコニーでドレンの管径や設置箇所数、オーバーフロー管の有無などを検討する際に経験だけに頼り、「ゲリラ豪雨」などであふれて雨漏りを招いたケースもある。

(下田健太郎)